



1区で区間新記録を樹立した三松小6年の重山洋輝さん。「中学生になっても代表になり、次は優勝したい」と話していました

Aチーム準優勝、Bチーム8位 第6回宮崎県市町村対抗駅伝

1月11日、第6回宮崎県市町村対抗駅伝競走大会が宮崎市でありました。小学生から50歳以上までの県内各市町村の代表選手らが12区間39.2キロをタスキをつなぎ競いました。市からは2チームが出場。Aチームは、2時間2分30秒で準優勝、Bチームは、2時間9分22秒で8位と健闘しました。

のじりこぴあで西諸弁カルタ大会

1月10日、方言大カルタ取り大会がのじりこぴあで開催されました。運動不足解消、西諸弁を地域に浸透させることを目的にハーメックのじりが企画。市内外から約30人が参加し、15分先におかれた西諸弁のカルタを走って取り合いました。



市内スポーツ少年団 476人が交流

1月17日、第34回スポーツ少年団の集いが総合運動公園陸上競技場で開催されました。市内29のスポーツ少年団の団員ら476人が参加。男女各学年ごとのロードレースなどを行い交流を深めました。



10人目の地域おこし協力隊に 横浜市の大村一雄さんが着任

地域活性化と定住・定着を目的とした総務省の「地域おこし協力隊」事業で、大村一雄さんを市の10人目の隊員として委嘱しました。1月から商工観光課に所属。大村さんは「小林には魅力的な資源がたくさん眠っています。それを多くの人に知ってもらえる取り組みをしたい」と話しました。



大村さんは、前職では経営部門に勤務。これまでの経験を生かし、観光資源の磨き上げや観光誘客の仕組みづくりなどを行っていきます

新春の山麓路で217人が健脚競う

1月3日、新春山麓路ロードレース大会が行われました。小学生から一般まで217人が参加し、新春の山麓路で健脚を競いました。大会ホームページに結果を公表しています。右のQRコードからアクセスできます。



防火防災への誓い新た「消防出初式」

1月10日、新春恒例の消防出初式が消防団訓練広場で行われました。西諸広域消防本部の職員や消防団員など420人が参加。規律を正す点検、分列・車輛の行進、放水などを披露。放水とともに虹が現れ、会場からは声援が送られました。



肥後市長を訪問した寺田さん(写真中)。空手を12年続け、全国大会で念願の初優勝。本大会での文部科学大臣賞の受賞は、県内初となります

寺田耐さんに文部科学大臣賞 空手全国大会で念願の頂点

11月15日に開催された第9回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会で、空手道魁の寺田耐さんが高校男子70キロ未満の部で優勝し、文部科学大臣賞を受賞しました。12月21日には、肥後市長を訪問し、結果を報告。「優勝できたのは周りの人たちの支えのおかげ。皆に感謝の気持ちを伝えたい」と話していました。

小林中央G・Gクラブが清掃活動

12月21日、小林中央グラウンド・ゴルフクラブが緑ヶ丘公園の清掃を行いました。会員50人が参加し、落ち葉拾いなどを実施。上村榮一会長は「いつも練習に使わせてもらっているのも、一年間の感謝の気持ちで清掃しました」と話していました。



ライオンズクラブが清掃用品を寄贈

小林ライオンズクラブが、子どもたちに学校や家で率先して掃除をしてもらおうと市内全小・中学校21校に清掃用品を寄贈しました。12月24日には、三松小で贈呈式があり、竹ぼうきなどを寄贈しました。



将来の夢見つけるきっかけに 小中学生がロボット製作体験

市内の高校や企業などと連携して、将来の夢を見つけるきっかけづくりの場を提供する「グローバルキッズ事業」の科学技術コースの第2回が12月19日、小林秀峰高校でありました。市内の小中学生25人が参加し、簡易なロボット製作に挑戦。同高校機械部部員10人を講師に、制御盤のはんだ付けなどを体験しました。



はんだ付けを体験する児童。参加した西小林中3年牧野翔立さんは「興味のある内容で楽しく、機械部に入りたかった」と話していました

高校生の体育振興に。区長会が寄付

12月17日、小林市区長会が高校体育振興のために、小林高校、小林秀峰高校、小林西高校に寄付をしました。倉田富夫会長は「区・組加入世帯の協力によるもの。全国レベルでの活躍や強化育成を力強く応援したい」と話していました。



ときわ会が市内初「くるみん認定」

12月24日、宮崎労働局でくるみん認定交付式があり、社会福祉法人ときわ会(坂口四郎理事長)が初めて認定されました。この制度は、厚生労働大臣が仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組む企業を「子育てサポート企業」として認定する制度です。

